

**製品名: AChE ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06492**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	70kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ACHE
別名	ACHE; Acetylcholinesterase; AChE
遺伝子 ID	43.0
SwissProt ID	P22303
免疫原	抗血清はヒト AChE 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 536-585

**背景**

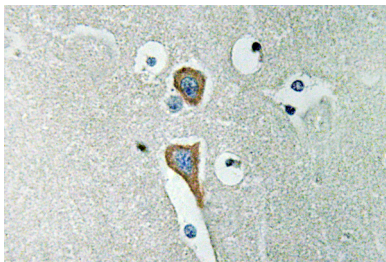
アセチルコリンエステラーゼは、神経筋接合部および脳コリン作動性シナプスにおいて神経伝達物質アセチルコリンを加水分解し、シグナル伝達を終結させます。また、赤血球膜上にも存在し、Yt 血液型抗原を構成しています。アセチルコリンエステラーゼは、類

似の触媒特性を有する複数の分子形態で存在しますが、オリゴマーの集合形態や細胞表面への接着様式は異なります。アセチルコリンエステラーゼは単一の ACHE 遺伝子によってコードされており、遺伝子産物の構造的多様性は、選択的 mRNA スプライシング、および触媒サブユニットと構造サブユニットの翻訳後結合によって生じます。脳、筋肉、その他の組織に存在するアセチルコリンエステラーゼの主な形態は親水性種であり、コラーゲンまたは脂質を含む構造サブユニットとジスルフィド結合したオリゴマーを形成します。もう一つの代替触媒活性:  $\text{アセチルコリン} + \text{H}_2\text{O} = \text{コリン} + \text{酢酸}$ 。疾患: アルツハイマー病におけるアミロイド促進因子として作用し、アミロイドプラークの形成を促進する。機能: シナプス間隙に放出されたアセチルコリンを速やかに加水分解することにより、神経筋接合部におけるシグナル伝達を終結させる。神経細胞のアポトーシスにおける役割。オンライン情報: アセチルコリンエステラーゼのエントリ。オンライン情報: 血液型抗原遺伝子変異データベース。多型: ACHE は Yt 血液型システムを担っている。Yt(a)=Yt1/Yt(b)=Yt2 血液型抗原の分子的基盤は、位置 353 における単一の変異である。His-353 は Yt(a) に対応し、Asn-353 を持つまれなバリエーションは Yt(b) に対応します。類似性: B 型カルボキシエステラーゼ/リパーゼファミリーに属します。細胞内局在: アポトーシス核でのみ観察されます。サブユニット: PRIMA1 と相互作用します。PRIMA1 との相互作用は、PRIMA1 を細胞の基底膜に固定し、テトラマーに編成するために必要です (類似性による)。アイソフォーム H は、ジスルフィド結合した GPI アンカー型ダイマーを生成します。アイソフォーム T は、モノマーやダイマーから、コラーゲン テールや疎水性テールの形態まで、さまざまな構造を生成します。これらの形態では、触媒テトラマーがアンカータンパク質と結合し、基底膜または細胞膜に固定されます。コラーゲン末端型では、アイソフォーム T サブユニットは特定のコラーゲン COLQ と結合し、モノマーおよびダイマーからアイソフォーム T テトラマーの形成を誘導します。アイソフォーム R はモノマーの場合もあります。組織特異性: アイソフォーム H は赤血球で高発現しています。

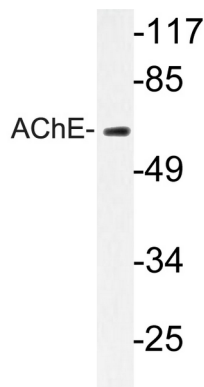
## 研究分野

グリセロリン脂質代謝;

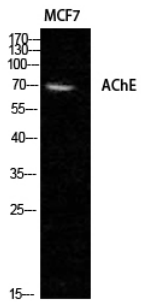
## 画像データ



パラフィン包埋ヒト脳組織における AChE 抗体の免疫組織化学分析。



AChE 抗体を使用した、Jurkat 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。



1: 1000 希釈の AChE ポリクローナル抗体を用いた MCF7 細胞のウェスタンブロット解析